

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 7 月 8 日現在

機関番号：14701

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K17208

研究課題名(和文) 管理会計システムに関する専門職の認知と目標一致に関する研究

研究課題名(英文) A Study on Professionals' Cognition on Management Accounting Systems and Goal Congruence

研究代表者

藤原 靖也 (Fujiwara, Nobuya)

和歌山大学・経済学部・准教授

研究者番号：10756175

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：専門職組織における目標整合性に資する要因を検討するため、本研究では主に以下の2点に着目し検討を行った。第1は、会計情報に対する専門職の認知構造は他の専門職と同様にとらえてよいか、つまり一般化するものか否かである。第2は、認知的な不協和があったとしても組織がどのようにコントロールすれば目標整合性を担保できるのか、である。研究結果は、第1に、どの専門職の認知構造も異なる次元であることは一般化されることが示されていた。第2に、目標整合性をはかるためには認知的な調和が必要不可欠であり、専門職の認知を無視した管理会計システムの採用は組織経営において深刻な逆機能を生むことが示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、近年重要な役割を担っている無形資産の1つである専門職知識を有する人材を、組織としていかにコントロールすべきかという課題に関連するものである。専門職が認知的不協和を起こすことはストレスを招くばかりでなくモチベーションを失わせ離職につながりうるものの、組織にとっては専門的知識を有する人材は必要である。その点において、管理会計システムの活用方法いかんによっては仕組みによるマネジメントが有効となることを示唆していた点にある。

研究成果の概要(英文)：In order to study the factors that contribute widely to goal congruence in professional service organizations by utilizing management accounting system(s), this study mainly addresses the following two questions. The first is whether perceptual structures of one profession about management accounting information can be observed as the same dimensions as another professions or not. In other words, whether they are generalizable or not. The second is how, even if there exist cognitive dissonances, how can one organization utilize control systems to help achieving goal congruence? The results show the following: first, that the cognitive dimensions for many professions could be generalized. Second, this study shows that it is necessary to consider cognitive alignment in order to achieve goal congruence. If an organization apply control modes that are different from this alignment factors, managers of the firm could face with serious situations.

研究分野：管理会計

キーワード：目標整合性 専門職 認知 管理会計

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 近年，とりわけ専門的知識を持つ人的資本すなわち専門職が企業の競争優位性の源泉として重要であると認識されてきた。一方で，現代では専門職の多くは組織に属し，それらの組織では予算管理などの管理会計システムの必要性は増している。このことに伴い，管理会計研究では専門職を組織としていかに管理するかが注目されてきた。それは，専門職が経営管理に過度に従うと職務に対するモチベーションを失ってしまうことや，本来社会的に期待されている職業的倫理観を失う可能性がある点にある(Bonner, 2008)。

(2) 1980年代から行われてきたこれらの研究は，主に経営資源に強い制約が課されてきた医療組織や，研究開発部門で行われてきた(Shields and Young, 1993)。そこで取り上げられてきた課題は，いかにして管理会計システムを活用すれば組織と個々の専門職との間で目標整合性が確保されるのか，という管理会計研究における根本的な問いである。とりわけ，専門職組織は専門職が強い裁量権を有しマネジメント層による管理の幅が限られている中で(Mitzberg, 1983)，数値目標による管理だけではコンフリクトが発生しシステムの運用を阻害しうることが指摘されてきた。

(3) それを受けて，藤原(2015a)は医療組織を対象としたシステムティックレビューを通じ，コンフリクトを生む主な要因は Freidson(2001)などがプロフェッショナリズムと呼ぶ専門職としての使命感などの認知的側面であることを特定した。一方，わが国では経営者に対する意識調査はあっても，専門職の管理会計システム・外部規範に対する認知も，それがどのように専門職個人のパフォーマンスに影響を与えるのかも明らかになっていないことを示してきた。

(4) そのうえで，看護師・公認会計士を対象としたサーベイ調査によって，コンフリクトを生まないようなシステムを構築することは可能であり目標整合性を保つことができる場合が存在しうることが指摘してきた(林ほか, 2015; 藤原, 2015b)。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は，これまで明らかにした専門職の認知構造や目標整合性に関する知見を他の専門職に広げ検討し，目標整合性に資する要因の一般化の可能性を示すことであった。

(2) 具体的には，大学教員・デザイナー・税理士・医師・コンサルタント等他の専門職も射程に入れ，認知構造のどこに異同があり，その結果として専門職個人のコンフリクトを避けながらもパフォーマンスを向上するためにはどのような仕組みが有効なのか，あるいは必要なのかに関する知見を深めることにあった。

## 3. 研究の方法

(1) まず、専門職の認知構造を明らかにするために、文献レビューを用いて関係しうる変数を明らかにしたうえで、インタビュー調査を医師・税理士・研究開発職・デザイナー等の多様な専門職に対して行った。その結果、認知構造は類似しており、これらの知見は諸外国において医療組織や監査法人・コンサルティング会社などが「知識集約的組織」として現在も議論されていることと通底していた。

(2) そのうえで、ケース・スタディ等によって、実際に予算管理システムをはじめとする管理会計システムが専門職によって形骸化されたことは、これらの認知構造と管理会計システムとが対立する、あるいは無視しても構わないと認識させる構図になっていたことを明らかにした。

#### 4. 研究成果

(1) 研究期間全体における成果としては、第1に独立変数になり得る認知構造が類似していたことが大きな成果として挙げられる。すなわち、管理会計システムに関する認知そのものと、外部のプロフェッションから与えられる規範に関する認知とは異なっていたことである。あとは、認知構造を定量的に比較可能な形で調査することを残すのみである。その結果を提示し、それらの因子構造を特定し、目標整合性にとって重要な因子を特定したいと考えている。

(2) 第2に、そのような専門職の認知を無視すれば、個人のパフォーマンスは抵抗という行動により低下し、マネジメント層との間で深刻なコンフリクトを生み、結果として最悪の場合、組織が崩壊に追いやられるなど多数の逆機能が出うことを示したことである。これらを踏まえ、専門職個人のパフォーマンスを管理会計システムを活用しながら向上させる方策をさらに深掘りしていきたいと考えている。

#### <引用文献>

・ Bonner, S.E. 2008. *Judgment and Decision Making in Accounting*. Upper Sage River, NJ: Pearson Education. 田口聡志監訳. 2012. 『心理会計学 会計における判断と意思決定』中央経済社.

・ Freidson, E. 2001. *Professionalism: The Third Logic*. University of Chicago Press.

・ Mintzberg, H. 1983. *Structure in Fives: Designing Effective Organizations*. NJ: Englewood Cliffs.

・ Shields, M.D. and S.M. Young. 1994. Managing Innovation Costs: A Study of Cost Conscious Behavior by R&D Professionals. *Journal of Management Accounting Research* 6 (1): 175-196.

・ 林隆敏・関川正・山田治彦・藤原靖也・柴原啓司(2015)『公認会計士の社会貢献と魅力の向上を両立させるために - アンケート結果から浮かび上がる公認会計士の「魅力」の実態 』日本公認会計士協会第36回研究大会, 2015年9月.

・藤原靖也(2015a)「管理会計研究における非営利組織の特質に関する検討 諸外国における知見から」『企業会計』第67巻第6号, pp.111-118.

・藤原靖也(2015b)「管理会計情報に対する認知と医療専門職の職務特性に関する研究」神戸大学大学院経営学研究科博士学位請求論文.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 藤原靖也・井上秀一	4. 巻 41(2)
2. 論文標題 医療機関の戦略遂行におけるミドルマネジメントの調整プロセスに関する検討	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 原価計算研究	6. 最初と最後の頁 123-133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤原靖也	4. 巻 9
2. 論文標題 コントロール・パッケージと専門職の認知 ケース・スタディに基づく検討	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 尾道市立大学研究叢書	6. 最初と最後の頁 19-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 藤原靖也
2. 発表標題 医療専門職におけるコスト意識と逆機能的行動 サーベイ調査による検討
3. 学会等名 日本組織会計学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Yoshinobu Shima and Takami Matsuo(Eds.)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 World Scientific Publishing Company	5. 総ページ数 -
3. 書名 Management Accounting for Healthcare (Chap.8)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----